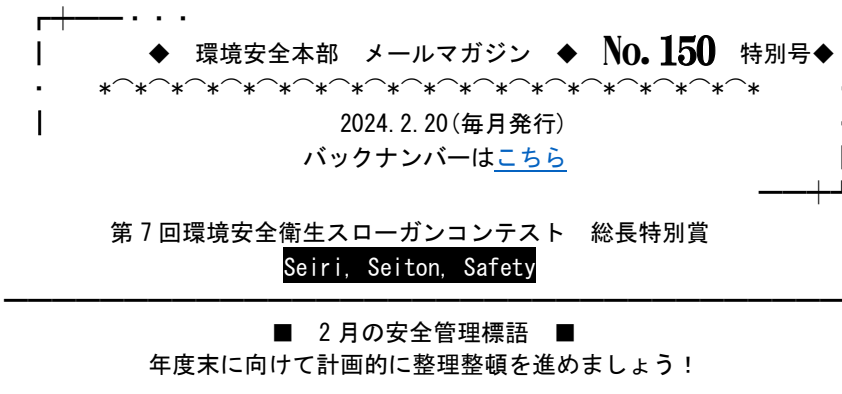


創刊 150 号を記念してアンケートを実施しています。よろしければ、今後のメールマガジンの発展のためご意見をお寄せください。

<<https://forms.office.com/r/EWNVqsVjWP>>



●年度末の一斉点検・化学物質等の適切な引き継ぎのお願い

年度末は実験室・研究室の人の入れ替わりが激しくなる時期です。この機会に、室内や廊下の一斉点検・整理整頓をお願いします。産業医巡視で受けた指摘のうち、対応できていない部分がある場合も、併せて対応をお願いします。

理系部局及び一部の文系部局では、薬品等の廃棄・引き継ぎにご注意ください。転出者が使用・管理していた薬品等については廃棄または引き継ぎを必ず行い、新年度に管理者が不明な薬品等が出ないようにしましょう。

また、4月からの転入者には薬品や実験機器の持ち込み有無を確認し、適切な手続きや管理が行われるよう周知の徹底をお願いします。

★最新の化学物質引継ぎ、持ち込みに関するガイドラインや確認書様式はこちら↓

東大ポータル>環境安全・安全衛生>4.1 共通_通達一覧>R51221【依頼】研究室及び実験室等における年度末一斉点検の実施と化学物質等の適切な引き継ぎの実施

https://univtokyo.sharepoint.com/sites/EHS_portal/SitePages/d/Notifications_EHS.aspx

●清掃中の事故にご注意ください！！

居室の整理・清掃中に転倒したり、床置きした機器等に躓いたりして負傷する事故が毎年報告されています。通り道に物を置かない、時間に余裕を持って清掃を行うなど、基本的な対策をしっかりと行い、事故や怪我を防ぎましょう。万が一怪我をしてしまった場合は必要に応じて保健センター・病院を受診すると共に、事故災害報告の提出をお願いします。

<過去に発生した居室清掃・物品運搬中の事故>

- ・片付け作業中に転倒した。(23078F)
- ・床に落ちていた掃除機につまずき転倒し、左足指打撲傷と診断 (22266M)
- ・簀の子の隙間に足を引っかけ骨折した。(21170F)
- ・6名でクリーンブース持ち上げて移動の際に腰を痛め歩行困難となった。(20212M)

★環境安全全般のポスター・通知・資料は東大ポータルからご覧いただけます。ご活用ください。★

<https://univtokyo.sharepoint.com/sites/EHS_portal>

=====★1・2 月に報告のあった東大の事故事例★=====

□注意を要する事故（！）

- ・オートクレーブに接続された電源タップが焦げていた。(23271Nf)

消費電力の高い機器を、二重に電源タップを繋いだ状態で使用していたところ、タップ部分が焦げていることがわかりました。消防署及び関係部署への報告が発見から時間が経ってから行われていますが、テーブルタップやコンセントの焦げを発見した場合は、速やかに①119 番②部局緊急連絡先③部局環安室等関係事務まで連絡をお願いします。

□実験中、作業中の事故

- ・小型のガス缶が破裂し、天井に穴が空いた。(23269Nb)
- ・廃棄試薬の処理で激しく反応が起こり白煙が生じた。(23270Ni)
- ・ハサミを使用してコンセントを抜こうとした際に火花が散り、コンセント口が焦げた。(23278Nd)

□移動中の事故

- ・3 輪電動車で走行中に扉に車体を擦り、傷が残った。(23273Nd)
- ・砂利道を徒歩移動中、露出したコンクリートに躓いて転倒、頭部に切創。(23276F)

※事故詳細はこちら→「[事故災害事例一覧](#)」

●メールマガジン 150 号に寄せて：環境安全本部長をはじめ、8 名の教職員の皆様よりお祝いの言葉を頂きました。

2011 年 9 月の創刊号以来、思いを繋いで 150 号。冒頭の環境安全衛生スローガンが登場したのは 2017 年 10 月の 74 号。私の就任挨拶は、2021 年 4 月の 116 号の掲載です。毎月の安全管理標語とそれに続く紙面は、歴代担当者が思いを込める力作です。これからも、メルマガが学内の隅々にまで届くことを願います。

岸 利治 環境安全本部長

安全情報を構成員皆で共有することは、安全を保つ上で大変有効です。会議や通知、HP などでは安全情報は共有していますが、メールマガジンはより親しみやすい形式で広く情報共有を可能にしました。150 回継続し定着したことは素晴らしい成果だと思います。さらに継続して情報を広めることを期待しています。

工学系研究科 土橋 教授（環境安全本部 企画調整部長）

環境管理部の最近の課題は、昨年の法改正に伴う化学物質リスクの自律的管理への対応になります。リスク低減には、化学物質を使う全ての構成員の自律的管理が鍵を握ることは言うまでもありません。メールマガジンは、本部と構成員が直接つながることができる貴重な機会ですので、今後も現場の自律的管理に役立つ情報が発信されていくことを期待しています。

新領域創成科学研究科 大島 教授（環境安全本部 環境管理部長）

メールマガジンは、研究・教育活動に直接携わる教職員や学生の方々に目を通してもらい、環境安全意識の向上を図る目的で始めました。学事歴に即したトピックを毎号取り上げられることで、より環境安全を身近に感じてもらえる構成となっています。150 号発刊を記念し、編集に携わった環境安全本部の職員の方々に謝意を表するとともに、メールマガジンが本学の構成員にこれまで以上に深く浸透し、環境安全の向上の一助になれば幸いです。

新領域創成科学研究科 戸野倉 教授（創刊号担当）

本部では、2 月 22 日（木）13：00～防火訓練を実施します。部局の方の任意参加も歓迎しておりますので、ご希望の方はフォームよりお申し込みください。※申込後、視聴用の URL が届かない場合は安全企画チームまでご連絡ください。

<https://forms.office.com/r/a4AA65LDjU>

事故災害報告制度は 2004 年 5 月より始まりました。これは事故災害情報を共有し、事故の再発防止、類似災害防止を目指すためです。その事故災害情報の周知と利用の促進のためにメールマガジンを発行することとなり、150 号を迎えました。ぜひメールマガジンの事故災害情報、安全関連情報を職場や研究室で共有し、安全衛生の向上にご活用ください。

環境安全本部 大久保 教授（安全衛生管理部長）

事故や災害への対応力は実体験を積むことで格段に進歩しますが、時間や組織を限定すると、関係者の多くが実体験を持つことは困難です。ゆえに、他の組織の体験や教訓を共有し、事故や災害の発生条件や組織の特性を踏まえて学ぶことが重要です。本メールマガジンの存在意義がここにあります。ぜひ、有効活用してください。

情報学環 目黒 教授（環境安全本部 防火防災部長）

本学の放射線利用は歴史も長く、約 4600 名が放射線取扱者として登録されています。放射線管理には、取扱者と一般公衆が適切に防護されることが法令でも求められており、放射線管理部では、部局放射線管理室、アイソトープ総合センター、保健センターなどと連携して、研究教育の場である大学での安全文化の醸成に貢献したいと考えています。今後ともご協力をよろしくお願いします。

環境安全本部 三谷 特命教授（放射線管理部長）

この度は 150 号おめでとうございます。創成期担当として光栄です。発刊経緯は戸野倉先生の「短時間の研究室ミーティングでどんな事故があったかを A4 用紙 1 枚で簡単に周知できる物が欲しいね」という言葉からでした。

そして第 1 号は、今から比べますと大変見た目がショボかったなーと（笑）今後も事故がある限り、継続お願いいたします。

環境安全課 塚田 上席係長（創刊号担当）

最後までご覧いただき、ありがとうございました。アンケートへのご協力をよろしくお願いします。

<<https://forms.office.com/r/EWNVqsVjWP>>